

第3回 六甲山系芦屋市地域学習ゾーン検討委員会

議 事 要 旨

1. 開催日時：平成20年2月5日(火) 15:00~17:00
2. 開催場所：芦屋市民ホール
3. 出席者：

【委員】

岩本 昌三	元芦屋市美術博物館副館長	郷土史
後藤 宏二	六甲砂防事務所長	
寺田 緑	芦屋市PTA協議会会長	
藤原 周三	芦屋市教育長（代理：川崎 正年次長）	
古市 景一	芦屋市環境づくり推進会議委員、元芦屋市中学校理科教員	生態学
宮田 隆夫	神戸大学大学院理学部教授	構造地質学

【事務局】

六甲砂防事務所	石尾課長、狩集専門官、西山技術員、金丸技術員
株式会社エイトコンサルタント	伊藤、田中、見掛、松島

4. 配付資料

- 議事次第
- 第3回 検討委員会資料（資料①～⑦）
- 参考資料（冊子：芦屋物語（案）、散策マップ(案)、サブノート(案)）

5. 議 事

1. 事務所長あいさつ	・六甲砂防事務所 後藤所長あいさつ
2. 第2回検討委員会 議事要旨	・事務局による説明（資料①）
3. 検討委員会スケジュール及び議題	・事務局による説明（資料②）
4. 冊子の構成・ストーリーについて	・事務局による説明（資料③）
5. 散策マップについて	・事務局による説明（資料④）
6. サブノートについて	・事務局による説明（資料⑤）
7. ハード整備について	・事務局による説明（資料⑥）
8. 利用促進方策について	・事務局による説明（資料⑦）
8. 閉会	・六甲砂防事務所 後藤所長あいさつ

<議 事>

●資料①、② 事務局説明

●質疑応答

(全員)

- ・《資料①、②について、補足意見、問題なし》

●資料③不思議編 事務局説明

● 質疑応答

(宮田委員長)

- ・ P1-2 の六甲山頂付近の様子の写真については、ピントのあった写真を使用すること。
- ・ P1-8 の文中で岩盤という言葉が使われているが、プレートに統一すること。
- ・ P1-12 の五助橋断層にはまだメインの断層そのものは写っていないので、今後の調査で出てきたときには差し替えたほうが良い。ペンディング事項である。
- ・ P1-13 の断面図で断層の傾斜が違っている。芦屋断層の傾斜は図のような高角度ではなく、もう少し北側に傾いているようにしたほうが良い。甲陽断層はこれくらいの高角度でよい。五助橋断層も、北側（右側）傾斜のほうが実際に近い。
- ・ P1-16 にナウマン像が発見された場所の写真があるが、これは花崗岩ではなくて堆積物なので、そういう堆積物から発見された旨を書いておく必要がある。現在これは中位段丘面と呼ばれている堆積物から出てきたと見ているわけで、書くとすれば、傾いた段丘の堆積物からとかを加えたほうが良い。

(岩本委員)

- ・ P1-16 ナウマン像が発見された標高は 340mのところではないか。

(宮田委員長)

- ・ P1-16 ナウマン像が発見された場所が芦屋市よりいただいた資料と異なっている。芦有ゲートのすぐ北側(約 100m)のところでないかと思われるので、この場所については確認すること。

(後藤委員)

- ・ P1-16 のナウマン像はどうして登ったのか？ 下のコラムでは歩いて登ったと思う人もいるだろうし、六甲変動と関係するということなので、地層が持ち上がったと理解する人もいるだろう。わかりにくいので、答えを書いたほうが良いのではないか。それと 20 万年前と 100 万年前とは大きく離れているが、どう扱えばよいのか。

(宮田委員長)

- ・ 中位段丘から出ていますから、7 万年前くらいを考えているのですが？ こういう年代の数字が出てくると難しいですね。表現をやさしく工夫したほうが良い。

(川崎委員)

- ・ 発見された化石は現在芦屋市に展示されているとあるのですが、再度確認してほしい。

(古市委員)

- ・ ナウマン像が登るという表現ですが、歩いて上がった印象をあたえられるので、なぜ、このような高い所で発見されたのでしょうかという表現にした方が良い。

(岩本委員)

- ・ 復元されたナウマン像の写真ですが、大阪市立博物館のもので、提供して頂けるのであれば良いのですが、兵庫県人と自然の博物館にもあると思いますのでそちらでも良いのでは。著作権の問題だけは注意したほうが良い。

(宮田委員長)

- ・ P1-16 のさらに約 100m 高いところという文章は、P1-9 に記載されている断面の五助橋断

層と荒地山間の堆積物のことである。同じことが P1-8 にも書かれており整理した方が良い。
(石尾課長)

・ P1-8 に入っているのですが、言葉を整理して P1-16 からは削除したほうがすっきりして良い。
(宮田委員長)

・ どうやって登ったのだろうというのは、どうして高い所で発見されたのだろうかという表現に修正する。

(川崎委員)

・ P1-27 の宮川河口部の写真があるが、仮設住宅が写っており震災時の写真と思われるので、新しいものに差し替える。

(後藤委員)

・ P1-18 に戻りますが、町の中にあると書いているが、文化センターにも展示してあるよということも記載すればよいのではないかと？

●質疑応答 素晴らしさ編 事務局説明

(古市委員)

・ P2-2 のミカツキグサはミミカキグサに修正する。

・ P2-3 の湿原という言葉は広い範囲を指すので、湿地としたほうが良い。またフデリンドウは湿地の植物ではなく、たまたまイモリ池付近に生えていたので、この文章は「イモリ谷湿地付近にはフデリンドウやイモリ池のヒツジグサ、」というように修正したほうが良い。

・ 白山神社の近くにあるブナ林とあるが、4~5 本しかないので、ブナの木に修正する。

・ P2-4 のミヤマアカネは岩園にはいないので、差し替えたほうが良い。

・ P2-5 の植物のうち、下記 2 種類は名称が間違っているので修正する。

ヒメオトリコ→ヒメオドリコソウ

ヒメクンバイ→ヒメウンバイ

・ P2-7 の左下のハゼは、正式にはマハゼである。

・ P2-8 の上のキツツキであるが、正式にはキツツキという鳥はいない。青ゲラとか赤ゲラであり、山の中にはいるものの、なかなか目につかないので省いてはどうか。

・ ヤマセミも 10 年に 1 回程度しか目につかない鳥であるので、これも省いたほうが良い。六甲山系でもあまり見ない。

・ 昆虫のオオバセセリは、アオバセセリである。

(寺田委員)

・ P2-22 の道路の愛称について、写真と地図の番号が合致していないので確認した方が良い。

(後藤所長)

・ P2-14 の古墳時代の漢人というのが渡来系を指しているのか、古代氏族そのものが渡来系なのか、そのあたりが良くわからない。

(岩本委員)

・ どちらもそうですが、古い資料の中に両方とも出てきます。芦屋は古来より渡来系の人々の力によってこういう文化が築き上げられたわけです。古文書の中にも渡来系の名前が出ています。

(後藤所長)

・ 葦屋漢人という名前が渡来系ということなんですね。それを説明しないと、初めて読んだ人にはわからないので修正する。

(古市委員)

・ P2-4 のキベリハムシは岩園町にいるような感じを受けるが、芦屋では高座の滝のあたりにし

かおらず、誤解される危険性がある。芦屋の珍しい昆虫ということであれば、ミヤマアカネも同じであり、このページに記載するのはどうか。

確かにキベリハムシは兵庫県だけにしかいない虫だから、コラムのようなもので紹介してはどうか。いまだに兵庫県でしか発見されていない。もともと日本にいた昆虫ではなく、神戸に入ってきた帰化昆虫である。日本にいるのはメスだけで、飛ぶ力が弱いのであまり遠くには行けない。但馬のあたりまで分布していることがわかっている。そういう意味では、キベリハムシを紹介してもよいのではないか。

(宮田委員長)

- ・コラムにとりあげて六甲山特有の昆虫として紹介する。ただし、場所については公にしない。なおミヤマアカネも加えて、コラムとする。

(寺田委員)

- ・P2-4の岩園町の田畑の様子ですが、今はもう開発されてこのような状況にはなく、現状にそぐわないので削除したほうが良い。

(川崎委員)

- ・P2-15の芦屋検定について毎年2月と書いているが、確か今年初めて開催するものである。確認をお願いしたい。またP2-11の「観察しまっしょう」は修正する。

(古市委員)

- ・P2-11のヤマガラシはヤマカカシに修正する。

(芦屋市教育委員会)

- ・P2-15-2の年代等は言葉の表現の仕方も含め再確認する。

●質疑応答 安全・安心編 事務局説明

(後藤所長)

- ・P3-2の写真の説明のなかで、国鉄路線は線路というほうが良い。また名称も昭和13年の時点では国鉄だけでも、今の子供達にはJRのほうがわかりやすいので修正したほうが良い。

(宮田委員長)

- ・P3-20の阪神大震災直後の山くずれの写真については、撮影場所を明記する。

(後藤委員)

- ・P3-16の模型実験の紹介は、六甲砂防事務所のHPで動画を見ることができるので、その旨を記載してはどうか。

- ・P3-22の会下山グリーンベルト整備事業の様子の写真(右側)が分かりづらいので、説明を付け加える。

●質疑応答 散策マップ・サブノート編 事務局説明

(宮田委員長)

- ・P2のナウマン像については、冊子と同様に修正する。

(古市委員)

- ・P6のミカヅキグサもミミカキグサに修正する。またコラムとしてキベリハムシを紹介する。例えば、兵庫県だけにしかいない昆虫がいるんだよ等。

(岩本委員)

- ・散策マップには公共施設として、市役所・市民センター・ルナホールは記入してほうが良い。
- ・人間灯台の説明には、池野良之助さんの名前をいれるとともに、農林技官という肩書きも入れて戴きたい。また観測所名も「劔谷森林気象観測所」と正式名称としたほうが良い。

- ・ヨドコウ迎賓館の名称は変わる可能性があるので、括弧書きで旧山邑家住宅と入れたほうが良い。
(宮田委員長)
- ・サブノート P1 には六甲山頂から大阪湾を望む写真を貼り付ける箇所があるが、散策マップ上にはそのようなルートがない。東六甲展望台を入れたほうが良い。
- ・芦屋の地形の特徴として、階段状となっている地形への問いかけがあっても良いのではないかと。
(古市委員)
- ・東おたふく山の道が荒れているとあるが、どこか？土樋割峠通ると歩きやすい
(岩本委員)
- ・サブノート P3 の何年前に作られたかなとあるが、せめて何万年前と入れたほうが良い。
(宮田委員長)
- ・サブノート P3 のロックガーデンと呼ばれる岩石地帯は、約何年前につくられたかな？とあるが、ロックガーデンの呼び方なのか？自然の地形を指しているのか？いずれにしても難しいので修正したほうが良い。

●質疑応答 ハード整備・利用促進について 事務局説明

(川崎委員)

- ・P19 の 3 に、登山道の改良・改修とあるが、安全性の面で子供たちへの配慮が必要である。また県の史跡になっているので、県の文化財と調整が必要であると考えている。われわれも十分に活用できていない状況であるが、この機会に六甲砂防さんの力をお借りして活用できるようにしたい。

(古市委員)

- ・遺跡に上がるのに山手中学校の中は安全面もあって通りにくい。横から上がる道はあまりよくない。

(川崎委員)

- ・学校の安全の面から、一般的には通していないし、今後も難しい。多くの方が来られるような環境にはなく、登山者を想定しているので、このような面での整備が必要と認識している。

(岩本委員)

- ・このルートは、遺跡と神戸の伝説の山の神、かえる岩等があり、ハイキングコースにピッタリである。今は道も荒れて入りにくいが、できるだけ多くの人に活用して欲しい。確かに火葬場の煙や、しのき谷の光化学スモッグのこともあるが、素晴らしい場所なので、できるだけ整備していただけたらと思う。

(石尾課長)

- ・遺跡を通るハイカーがどれくらいいるのか？この把握のため、この2月から平日・休日ともに二日間、今後は、春・夏・秋 調査しようとしている。今後は、どれくらいのメンテナンスが必要か等、芦屋市とも相談しながら検討してゆきたい。

(後藤委員)

- ・夢物語かもしれないが、ハイキング道や歩道整備の維持については、地域住民や団体の方等と協同の中で構築していくしくみができないか？全てが行政主導はどうか、地域の財産という観点を持って戴きたい。

(古市委員)

- ・かつて山中中学校において、遺跡へ登る道をマクラ木で整備したことがある。

(後藤委員)

- ・この会下山をそのような学校教育のフィールドとして使っていただければ良い。
(宮田委員長)
- ・冊子ができると、人が訪れるので、アプローチの問題も多くなる。このような観点での枠組みづくりも必要ではないか。

全体に対する意見

- ・特に無し。

金津山古墳について芦屋市から説明

- ・金津山古墳は住宅の一角にある。芦屋市としては、いつでも申し込みがあると鍵をあける用意はある。周辺住民のプライバシーもあり、大勢の見学は難しい。このような状況なので、当該冊子には記載しない。

<閉会挨拶>

(後藤委員)

- ・第1回委員会から約4ヶ月、ありがとうございました。今日戴いたご意見を加えまして取りまとめの上、その結果の報告・確認をさせて戴きたいと思います。今しばらくおつきあいの程、よろしくお願い致します。